

口絵 ロンドン物価報告状

一八七六年（明治九）の創業後、着々と国内・海外に店舗網を拡大した三井物産は、各地経済状況・政治状況に関する情報収集能力をも強化していった。収集情報は書簡・電信などによって個別に伝達される他、三井物産の各支店・各々が収集情報を一定の形式に整理して定期的に印刷し、これを各店に送達・浸透させることがおこなわれた。現在確認できる定期的刊行物の中では、口絵に掲載したロンドン支店発行のロンドン物価報告状（「倫敦物価報告状」「龍動物価報告状」などと表題が付されている）が最も古い（小石川家旧蔵、三井文庫所蔵未整理史料）。この報告状は毎週一回コンニャク版で印刷され、郵便船で日本に送られた（大きさはA四版程度で、ほとんどが一枚）。現存の最も古い刊行番号第九号（一八八〇年五月八日）から推定すると、第一号は一八八〇年三月一〇日前後に発行され、その後すくなくとも第八五号（一八八一年一月二五日）までは続いた。報告状の形式は、はじめに一週間の天候・商況を解説し、つぎにロンドンの主要商品相場表・為替相場表をかなり詳細に掲出するよう調製されている。三井物産が内務省から発行を依頼された『中外物価新報』では対応する時期に「倫敦米商会社」作成のロンドン商況報告・諸商品相場表が抄訳・掲載されているが、三井物産のロンドン物価報告状はこれや類似のものを参照して作成されたのではないかと思われる。日本到着まで五〇日前後を要したロンドン物価報告状は電信のような速報性はないものの、日本でロンドンの商況を中期的に把握する上では和文のこともあって便利だったのかも知れない。

もっとも、刊行の直接的契機についてはまったく別のうがった見方もできる。三井物産社主三井養之助は商事研修のため一八七八年（明治一一）三月から三井物産のロンドン代理店であるアルウィン店に勤務した。翌七九年（明治一二）、上海支店に勤務していた笹瀬元明（渋沢栄一の甥と記された資料があるが、渋沢との具体的な血縁関係は不詳）がロンドン支店支配人（支店長）として派遣され、九月一日に三井物産ロンドン支店が開設（一八八〇年＝明治一三年九月一日開設とする説は誤り）された後も、帰国をしる養之助は一八八二年九月までロンドン支店勤務を続けた。口絵の第八三号のように、現在する号のほとんどが養之助の筆蹟と推定できるので、ロンドン物価報告状は養之助に商事研修を義務づける意味でなされたのか、あるいは逆に帰国をしる養之助が研修の証左として作成したのかも知れない。

（鈴木）